

信友

信友会事務局

東京都新宿区四谷本塩町4-41
住友生命四谷ビル
電話 080-4816-3202

主 記 事

- 2面…通信学校長
通信団長
- 3面…陸上幕僚監部通信電子課長
補給統制本部副本部長
- 4面…前東北方面通信群長
- 5面…会員だより

今回も大盛況 会員・現役等集い大いに盛り上がる！

第五十三回総会及び通信科・信友会合同歓送迎会を挙行政

第五十三回信友会総会及び通信科・信友会合同歓送迎会が平成二十九年二月十九日(日)に「第一ホテル東京(新橋)」において盛大に行われました。

陸幕通信電子課長奈良岡一佐の講話に始まり、続いて実施された総会では、平成二十八年度事業報告及び平成二十九年年度事業計画等が審議了承されました。その後、信友会・現役合同の歓送迎会が挙行政されました。

とができました。途中、横断幕が剥がれるハプニングはありましたが、約二時間の会は信友会会員相互の旧交の場、現役隊員との交流の場、通電関係企業等との意見交換の場として、極めて有意義な会となりました。本年は、平成三十年二月十八日(日)に第一ホテル東京で行われます。今回も三百名を超える会員及び現役の皆様のご参加をお待ちしております。

中方地区懇親会実施

信友会の地区懇親会は、毎年、方面通信群の記念行事祝賀会食の場をお借りして行っております。

平成二十九年は、中部方面通信群創隊五十四周年記念行事に併せて、三月四日(土)に伊丹駐屯地内において行いました。中方地区の信友

合同歓送迎会

方面通信群の訓練検閲・通信学校FOCの合同MMへの参加等、現役参加が厳しい状況ではありましたが、会員・現役をはじめ、関係企業等多くの皆様のご賛同を得て、三百二十三名の出席を頂き、盛大かつ成功裡に合同歓送迎会を執り行うこ

陸幕通信電子課長講話



古希お祝い



吉原通信群長を囲んで

祝賀会食の場をお借りして行っております。平成二十九年は、中部方面通信群創隊五十四周年記念行事に併せて、三月四日(土)に伊丹駐屯地内において行いました。中方地区の信友会会員十五名、他方面から十八名(うち役員八名)の計三十三名の方々が参加し、吉原通信群長への記念品の贈呈に続き、群長自ら部隊の近況等の説明をいただきました。次いで信友会事業等の説明や意見交換会等を行い、叙勲を受賞された原様を御祝いするとともに、現役隊員及び招待者も一緒に、久しぶりの再会に大いに語り合い、懇親の実をあげました。

急速に進化するICT技術に追いついていない心

信友会会長 田中達浩



信友会会員の皆様、通信・システム等の任務に従事されている現職隊員の皆様、つつがなく平成三十年を迎えられていることとお慶び申し上げます。

平成二十九年は、米国のトランプ政権の誕生で始まり、北朝鮮の弾道ミサイル・核実験及び世界中で見られた異常気象による災害の発生が大きな衝撃をもたらしました。平成三十年は、米国では、中間選挙の年でありトランプ大統領への支持の変化が政権の運営に影響を与える節目の年に当たります。反オバマ、反既存政策から出発してどのような方向に落ちていくのかが注目されます。国内の安全保障・防衛政策では、防衛大綱・中期計画見直しが行われることが言われています。周辺の安全保障環境が大きく変化している中で、米国の方向を見極めつつ、同盟のあり方、防衛政策のあり方を明確にしていかなければなりません。特に今まで明確にしてこなかったサイバーや宇宙に関わる安全保障・防衛政策のあり方が重要な決定を必要としています。

通信・システムの分野では、急速にIoT(Internet of Things)が進化しており、予想通り二〇二〇年には五百億端末が接続されるような普及スピードです。そして同時にロボット技術、バーチャルリアリティ(仮想現実)技術が大きく進化しています。もう一つの大きな技術革新の注目点は人工知能(AI)です。現在の技術では限界が存在するとされますが、それでも想像を絶するレベルに到達する可能性を秘めています。高齢者や障害者等の生活を支える技術・製品・サービスが創出されることは疑いの余地はありません。

しかし一方で、これらの技術が創り出す世界においては、利便性の追求が先行し、無限の可能性を持っている反面、悪用する者たちの存在を考えると安全安心の準備が先送りされているように思えます。

高齢者にとっては、利便性の向上は必要であり、物理的・身体的なサポートは大きく生活環境を変えて安全安心

心をもたらすと思われすが、ITリテラシーが相対的に低い人にとっては、サイバーセキュリティという視点からの安全と安心には十分なサポートが必要です。高齢化が進んでいる近代国家こそ虚像の構築が進み、セキュリティを理解することに限界のある高齢者が社会の相当数を占める現在、ある意味で危険な状況であると考えられることもできます。

少し先のことだと思っていた自動車の自動運転の進化速度を見ると、思っていた以上に新しい技術の時代が来るのが早いと思われます。その時代を迎える準備はできているのでしょうか。虚像が創り出す世界に生活する人間としての倫理観、維持しなければならない人間性など、議論をしていかなければならないことは多くあります。「般若心経」の世界観を理解しなければならぬのかもしれない。

今年も、より多くの会員の参加により信友会の伝統の継承・発展を図っていききたいと思ひます。会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

54回総会・合同歓送迎会のご案内

信友会五十四回総会及び合同歓送迎会を左記の通り実施します。総会では陸幕通信電子課長の講話も予定しております。年に一度の懇親の場です。大いに懇親の実をあげていただきますようお願い申し上げます。

記

- 一日時
平成三十年二月十八日(日)
総会 会十一:〇〇~十一:五〇
合同歓送迎会 十二:〇〇~十四:〇〇
- 二場所
第一ホテル東京(前年に同じ)
新橋駅(JR・銀座線・浅草線)から徒歩五分
住所 東京都港区新橋一-二-一六
電話 〇三-三五〇一-四四一一
- 三会費
九、〇〇〇円(当日受付にて頂きます。)

【お願い】
出欠については同封のがきでご返信下さい。

「戦う通信科」の時代

通信学校長 陸将補 廣 恵 次 郎



信友会会員の皆様には、平素よりご指導、ご鞭撻を賜り心より感謝申し上げます。特に、前職統合幕僚監部指揮通信システム部長在職中は多くの信友会の諸

先輩方から暖かいご支援を賜り重ねて御礼申し上げます。

さて、平成二十九年八月第三十九代陸上自衛隊通信学校長として着任致しましたが、着任当日より学校職員に対し以下の三点の意識改革を要望しております。

まずは、「陸上自衛隊の通信は統合運用のための通信」という役割も果たさなければなりません。」ということです。最近のミサイル防衛、災害派遣、国際活動に代表される自衛隊の運用は、全て統合運用で実施されており、運用の基盤となる通信の役割は極めて大きくなってきました。陸海空の各システムが接続され、相互に情報共有すること、そのためのネットワークの抗堪性が確保されていることが作戦成否の鍵になりました。したがって、今後の陸上自衛隊の通信は陸上自衛隊という枠を超えて、自衛隊のための通信として貢献していく必要があります。

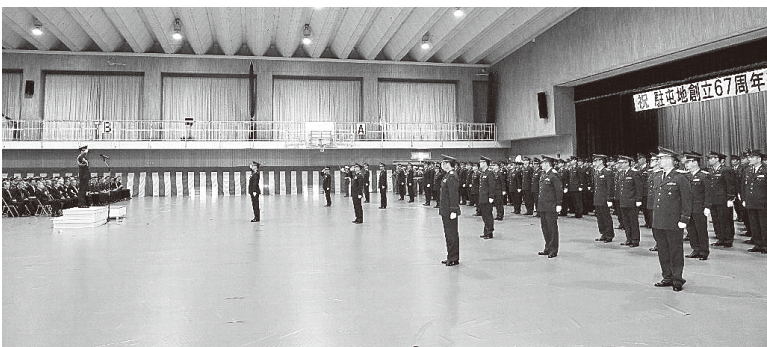
二点目は、「陸上自衛隊の通信科職種は、システム通信科職種でなければならない。」ということです。統幕指揮通信システム部長時代に学んだことの一つは、海上及び航空自衛隊のシステムは陸上自衛隊よりも一歩進んでいるということです。今後、陸上自衛隊はシステム通信の防衛力整備、運用・訓練、人材育成をトータルで職種として進めていかなければなりません。その役割を担えるのは通信科職種において他にありません。したがって、通信科職種はシステム通信科職種、通信団はシステム通信団、通信学校はシステム通信学校でなければならないと思っております。

三点目は、「システム通信科職種の一部は戦闘職種、第一線部隊だ。」ということです。陸上自衛隊創隊以来、陸上自衛隊の通信科職種は、「戦闘支援職種」という位置づけであり、指揮の命脈としての基盤を提供するという役割を果たしてきました。しかし、現代戦はその指揮

の命脈であるシステムやネットワークそのものが攻撃対象になってきています。その手段として用いられるのがサイバー攻撃や電子戦です。したがって、近未来に誕生するであろう陸上自衛隊のシステム通信科職種の一部は「戦闘職種」だということを認識する必要があります。

また、それらの部隊は今の瞬間においてもオンライン上で戦っているという意味においては、「第一線部隊」と認識する必要があります。米軍の将官の中には、戦いの緒戦はネットワークの切断合戦になると主張している人もいます。また、戦場の勝敗を左右するのは制空権・制海権だけではなく、電波優勢だと主張する人もいます。米軍においても、自衛隊においてもこれらの戦いの多くの部分を現行の通信科職種が担っていくことは共通しています。通信科隊員の多くが従前の役割である「戦闘支援職種」としての役割を果たしていくことは不変ですが、「戦う通信科」という時代の要請も強く意識しておく必要があります。

以上の認識の下、陸上自衛隊通信学校が果たすべき役割の増大は当然の帰結であり、統合幕僚監部や陸上幕僚監部と連携しながらしっかりと準備を進めるように指示しております。特に、平成二十九年年度末に新編される教育訓練研究本部(仮称)との連携を見据え、先行的に様々な検討を鋭意進めているところです。執筆時点の平成二十九年九月現在においては、学校職員一人一人の献身的な努力により、



久里浜駐屯地創立67周年記念式典

或いは関係部署のご協力により望ましい方向で検討が進んでいると認識しています。今後も、システム通信科の将来のために、強靱な陸上自衛隊の創造のために、そして確な統合作戦遂行のために学校長以下陸上自衛隊通信学校全職員が一丸となって努力を継続する所存です。信友会会員の皆様におかれましては引き続きご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

新たな時代に対応する人材の育成

通信団長 陸将補 藤 井 祥 一



信友会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃、私ども通信団に対し多大なご支援・ご協力を賜り、通信団全隊員を

代表して心より御礼申し上げます。

我が国を取り巻く安全保障環境は、日々、厳しさを増している中、通信団は、平成二十九年年度末に予定されている、システム通信団への改編及び陸上総隊への編合を控え、急ピッチで準備を進めているところです。

また、平成三十一年度末に予定されている暗号、無線、搬送、有線の四個特技から、システム(仮称)、ネットワーク(仮称)、セキュリティ(仮称)への移行に対応すべく、準備をしています。

陸上自衛隊の通信器材は、野外通信システムに代表されるように、IPネットワーク器材を中心とするものに変わりつつあります。七九式器材が、「新通」と呼ばれ、幹部初級課程で、それらの教育を受けた私の年代は、もはや、「絶滅危惧種」となりつつあります。

新特技への移行を前に、現行特技との差分を埋め、システムに関する識能を向上させ、「絶滅危惧種」を絶滅の危機から救い、新たな時代に対応させるため、通信団では、先行的に移行教育前に各隊員に対し、情報処理技術者等の公的資格取得を推奨しています。

約一年間で、新たに資格を取得した者は、情報セキュリティマネジメント四十名、基本情報技術者一名、ネットワークスペシャリスト一名、データベーススペシャリスト一名、情報処理安全確保支援士二名、SSCP認定資格一名であり、今後も新規に資格を取得する者、更に高度な資格に挑戦する者が増加するよう指導しています。

また、システム防護隊においては、サイバー攻撃等対処能力の向上を図るとともに、隊外のサイバー競技会等の選手要員選定及び同競技会上位入賞の資とするため、サイバー攻撃等対処演習を実施しました。競技は、実践的サイバーセキュリティに係る練度向上

のため、実務者として必要な知識・技能を横断的に評価する形式及びインシデント・ハンドリング能力を向上する形式で実施しました。

今年度の新たな試みとして、システム防護隊所属隊員に加え、各方面隊において、サイバー攻撃対処に当たることが予定される要員、通信保全監査隊監査システム班所属隊員、そして、通信団長である私も参加して実施しました。

システム及びサイバー攻撃等対処に必要とされる人材不足の解消は、今や待った無しの喫緊の課題です。平成三十一年度の新特技への移行をひとつのトリガーとして、通信団所属隊員の意識を変え、一人ひとりが「絶滅危惧種」とならないよう自らを進化させ、新たな時代に挑戦するよう隊務を運営してまいります。

最後に、信友会会員の皆様方のご健勝と信友会の益々のご発展を祈念するとともに、今後とも変わらぬ温かいご指導とご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



平成29年度システム防護隊演習サイバー攻撃等対処

防衛関連企業との連携について

陸上幕僚監部通信電子課長

一等陸佐 奈良岡 信一



信友会の皆様には、陸幕装備計画部通信電子課に對しまして、常日頃から暖かいご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成二十八年十二月に第二十代の通信電子課長に着任し、はや一年が経過しました。歴代の通信電子課長をはじめ諸先輩方の築いてこられた業績を引き継ぎ、陸自装備行政の中枢としての役割を十分に果たせるよう部下隊員とともに日夜奮闘努力しておりますが、皆様には、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、自衛隊を取り巻く安全保障環境は、皆様ご案内の通り、近隣諸国の我が国周辺での活動活発化、大規模震災の発生の恐れ及び異常気象による災害など、いつ何が起こらないとも限らない状況にあります。このため、今に即応し明日に備える態勢を保持することが必要であり、特に、兵站業務の実効性の向上が重要です。このような認識の下、継続して作戦を遂行できる基盤を確立する観点から、防衛関連企業との連携について、所感を述べたいと思います。

最初は、「装備品等の高可動率の維持」に関する連携です。前職は、補給統制本部通信電子部長であり、陸自補給整備業務の中枢として勤務しましたが、交換部品等の製造中止や部品製造に長時間を要し、長期間不可動状態となっている装備品等が少なくない現状から、平素から作戦間を通じた高可動率の維持は、部隊の任務遂行に影響を及ぼさないための喫緊の課題と認識しています。

このため、代替品選定や調達リードタイム短縮などの官民調整を緊密にすることが重要です。また、近年では高度な技術により製造された電子機器が多く含まれていることから、障害の原因が野整備部隊でも判定できない場合があり、企業の現場進出による診断・修理で復旧させるなどの処置も必要です。この場合は、緊急時に直ちに現場進出できる態勢を企業側に確立して頂くことが必要であり、そのための役務契約等について連携することが

重要です。このような現場進出は、二十八年の熊本震災や伊勢志摩サミットなどで成果がありました。今後検討すべき課題（特に有事の対応）もあり、継続して連携していくことが必要です。

次に、「装備品等の不具合等への対応」に関する連携です。装備品等を使用すれば、何らかの不具合は発生します。取り扱いミスや単なる故障であれば修理等で解決しますが、部隊運用への支障或いは安全管理上、使用を停止せざるを得ないなどの不具合は、部隊・隊員に安心して使用して頂く観点から、早急に原因を解明し、必要な改修を行うことが必要です。改修に当たっては、陸幕・補給・部隊及び企業により改修方針を決定し、改修に必要な予算を確保し、全数改修完了に向けて、官民一体となった緊密な連携が必要です。近年では、平成二十八年度から補給通電部において、野外通信システム官民調整会同を定期的に開催し、成果を得ているところです。

防衛関連企業との連携は、この他にも様々ありますが、企業との緊密な連携のためには、企業の防衛生産・技術に係る基盤の維持・強化が大前提であると認識しています。そのため、必要な予算を確保することは勿論のこと、防衛装備・技術協力（防衛装備移転）の推進にも積極的に参画し、企業の活力向上の一助となるように努力して参りたいと思います。

最後に、信友会の皆様の今後益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げますとともに、通信電子課へのご支援・ご協力を重ねてお願い申し上げます。



陸上装備フォーラム通信電子分科会（29. 3. 1）

補給統制本部の取り組み

補給統制本部副本部長

陸将補 河本 宏章



信友会の皆様、いつもお世話になり本当に有難うございます。

ふと気が付くと、いつの間にか現役通信科隊員の最上級生になっていました。

私は通信科部隊等で勤務したのは古い順に、東部方面通信群での小隊長、通信学校研究員、第六通信大隊長のみであり、通信科隊員としてここまで育てていただいたにも拘わらず、通信科のためにほとんど貢献できていないことを深く反省し、そう遠くない退官後もし信友会に入会させて頂けるのであれば、それから通信科のために相応な恩返しをしなければならぬと思う今日この頃です。

今回は、現補給統制本部の取り組みの一端を紹介させて頂きたいと思います。

現在の情勢をみると既に平時とは言えない状態であり、すぐにも作戦に必要な補給品の緊急増産に着手すべきではないかと思えるほどです。その様な中「作戦準備に時間的余裕があった冷戦期とは全く違い、何がいつ起こるかわからない状況の中、作戦基盤が不十分な地域で戦闘する第一線部隊に、必要な補給品を必要な時期に必要な量だけ届く態勢を整えるために今なすべきことは何か」という問題認識を有しています。

そのために、①今部隊が保持している装備品等の可動率をいかに効率的に高めるか。②少しでも時間があるうちに必要な物を備蓄するためにはどうすれば良いか。③物に不足が生じた場合、どこを優先し優先しないところはどれだけ我慢するか。などを検討し施策化することが必要であるとの考えの下、関係部署との認識共有を図り次期大綱・中期に繋げていけたらと思っております。

二つ目は、「限られた予算をいかに効率的に使用するか」ということです。ここ数年外国から主要装備品を導入する必要性もあり、後方経費も三國予算が増加傾向にあるため、部品の調達にもこれまで以上に長期間を要するようになっていきます。したがって、これまでの実績値からの予測によるだけでなく、将来の故障を予測して

部品を調達する必要性が増加しているのです。補給管理システムに蓄えられた膨大なデータの活用と併せてメーカーの皆さんからのご協力も頂いて、予測値の精度向上を図る施策に着手したところです。また、国庫に返納する予算を局限するため、契約時期や納期を早める努力とそのための関係者との緊密な連携にも取り組んでおります。

三つ目は、「いかに兵站支援能力を向上させるか」であり、補給統制本部が主催するCPXや実動訓練により、補給品の梱包要領や現地での受領要領など細かい点も検証して実効性のある計画を作成し、部隊の作戦を真に支える兵站支援態勢の構築に取り組んでいます。

以上、取り組みの一端を紹介させて頂きましたが、これからも信友会の先輩方々からたくさんのご指導・ご鞭撻を賜り、精進して参りたいと思いますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



十条駐屯地内の桜並木

これからの時代の期待に応えられる 通信科部隊・隊員となるために

通信学校第一教育部長(前東北方面通信群長)
一等陸佐 小松 広 志



信友会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃から我々通信科部隊等・隊員に對しまして、多大なるご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、皆様ご承知のように、現在陸上自衛隊は、現防衛大綱においてうたわれている「統合機動防衛力」実現のため、「即応機動する陸上防衛力」の構築を目指し、「創隊以来の大改革」を行っているところです。その中には、「機動展開能力の向上」「水陸両用機能の整備」「陸自中央指揮機能の強化」などとともに、「情報・通信態勢・体制の強化」があり、いわゆる「情報の戦力化」という要素が入っています。

実質的改革の初年度とされる平成二十九年年度末には、陸上総隊司令部新編、機動師団・旅団(即応機動連隊新編を含む)への改編、水陸機動団新編、教育訓練研究本部新編などが予定されるとともに、システム通信関連分野でも、平成二十八年度末の陸幕指揮通信システム・情報部指揮通信システム課新編に続いて、陸上総隊司令部システム通信課新編、通信団のシステム通信団への改編が予定され、平成三十年度以降には、方面隊レベルでの関連改編が予定されています。

「統合機動防衛力」や「即応機動する陸上防衛力」における作戦基本部隊等の戦い方の重要なコンセプトの一つに、陸自としての火力減勢の趨勢の中、真に「情報の戦力化」が求められることがあります。従来から、米軍の戦い方なども参考にして「情報優越の獲得」の概念はもろろんありましたが、実際のオペレーションへの適用という意味では、長い間、実効性のあるものではなかったように思います。しかしながら、今回の陸上自衛隊の大改革における新たな作戦基本部隊等においては、真に「情報優越の獲得」による「情報の戦力化」が求められ、オペレーションにおいて、システム上で、COP(Common Operational Picture：共通状況図)などを活用した迅速で正確な「状況の把握」や「目標等情報の共有」を実現し、センサー・トウ・シューターズなど(各種のセンサー等による目標等情報の獲得・状況把握・情報共有から迅速な決心、迅速・正確で最適な火力発揮等に至る作戦戦闘の大サイクル)を実現した戦い方が求められます。

ここで、我々システム通信に関わる部隊・隊員にとって最も重要なことは、これらの新たな陸上自衛隊の戦い方を実効性あるものとするため、システム通信分野において、この戦い方の実現をしっかりと支えることが期待されていますし、支えなければならないということです。通信科職種にとって、従来から重要であった作戦部隊の

ための「指揮通信」の確保の重要性はそのままに、更に、陸上自衛隊が真にCOPなどを活用して、言わば「システムで戦う」ことができるようにするための「システム通信」を提供することが求められ、「情報の戦力化」を支える「システム通信」へ進化することが求められているのです。これからの陸上自衛隊は「システム通信」をもって「オペレーション」を遂行するため、それらを含む大きな作戦ネットワーク環境をターゲットとした攻撃等である「サイバー攻撃」や「電磁スペクトラム作戦(Electromagnetic Spectrum Operations：電子戦含む)」等への対応もまた、今後ますます、重要な任務となっていくと思われま

す。これらの陸自の大改革・システム通信の変革の時代へ対応していくためには、まず、我々陸自システム通信に携わる者として部隊が「意識を改革」し、「能力を向上」させることが必要です。一般通信部隊においては、練成訓練・OJT等によって、学校等においては、基本教育を通じ、それらを実現できる人材そして部隊を育成していかなければなりません。具体的には、我々通信科部隊・隊員として、通信ネットワークに関する能力に加え、システムに関する能力、サイバーに関する能力、電子戦を含んだ電磁スペクトラム作戦に関する能力などを強化していく必要があります。

このため、我々は、そのような状況・時代環境に対する新たな「認識」を保持し、従来からの「意識を改革」して、我々通信科隊員が、それぞれの地位・役割の中で、通信科部隊・隊員の新たな「システム通信に係る任務完遂力」の確保そして強化へ向けた「挑戦」をしていくことが必要であり、私としてもその地位・役割に応じ「時代の期待に応えられる通信科部隊及び隊員・人材の育成」に引き続き尽力して参る所存です。

今後とも、信友会の皆様には、我々に対する倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



通信群長として総監訓練検閲受閲時のひとコマ

陸上自衛隊通信電子の現況

陸幕通信電子課

一 はじめに

(一) 我が国周辺を取り巻く安全保障環境は、様々な課題や不安定要因がより顕在化してきており、一層厳しさを増しています。特に、北朝鮮による核兵器・弾道ミサイル開発や、中国による南シナ海等における緊張を高めるような行動は、我が国を含む地域・国際社会の安全に対する重大かつ差し迫った脅威となっており、多くの課題を残しています。また、近年多発するサイバー攻撃は日々高度化・巧妙化し、サイバー空間の安定的利用に対するリスクが増大しています。このため、我が国においては、いかなる事態においても国民の命と平和な暮らしを守り、国際社会の平和と安定にこれまで以上に積極的に貢献するため、自衛隊に対する国民の期待と要求は更に高まっていくものと考えられます。

(二) このような中、陸上自衛隊は、体制移行の途次にあり、統合運用の下、陸上自衛隊の各部隊の迅速・柔軟な全国運用を可能とするため、平成二十九年年度末「陸上総隊」を新編します。また、南西地域に迅速・段階的に機動展開し、実効的に抑止・対処するため、即応機動連隊の新編等により機動性を高めた機動師団・旅団を整備するとともに、島嶼部における各種事態等に海上から迅速に機動展開するため、「水陸機動団」を新編します。

通信科部隊については、通信団が「システム通信団」に改編され、陸上総隊直轄部隊として編入されます。また、水陸機動団の新編に伴い、その隷下に通信科部隊が整備されます。

二 システム通信等に関する状況

(一) 情報通信ネットワークへの依存度がますます増大していく中において、諸外国の政府機関や軍隊等の情報通信ネットワークに対するサイバー攻撃は多発しており、サイバーセキュリティは喫緊かつ重要な課題であると言えます。

(二) 我が国においても、サイバーセキュリティは安全保障上の重要な課題であるとの認識の下、政府全体で取組みを行っています。防衛省・自衛隊としては、自衛隊指揮通信システム隊等が二十四時間態勢で通信ネットワークを監視している等、各種施策を講じています。

(三) 陸上幕僚監部は、現防衛大綱における自衛隊の体制整備にあたっての重視事項の一つである「指揮統制・情報通信能力の充実・強化」を実現するため、平成二十九年三月、指揮通信システム・情報部を新編しました(別図1参照)。また、陸上総隊司令部においては、システム通信を所掌する部署として「システム通信課」が設置されます(別図2参照)。

(四) 各方面総監部においても、システム通信を所掌する幕僚機能の強化を図っていきます。

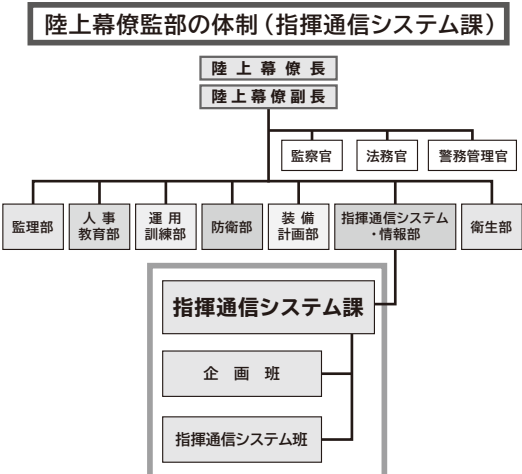
三 主要通信電子器材等の整備

平成二十九年年度は、引き続き野外通信システムの骨幹装置(アクセスノード装置・バックボーンノード装置)と広帯域多目的無線機(通称「広多無」)等を第六師団、水陸機動団、通信教導隊等に導入して、野外のネットワークインフラとして迅速かつ的確な情報の伝達・共有等を行うための能力を更に強化します。また、衛星幹線通信システムの可搬局装置を第二師団、第七師団、第十二旅団等に導入し、即応性を更に向上させます。

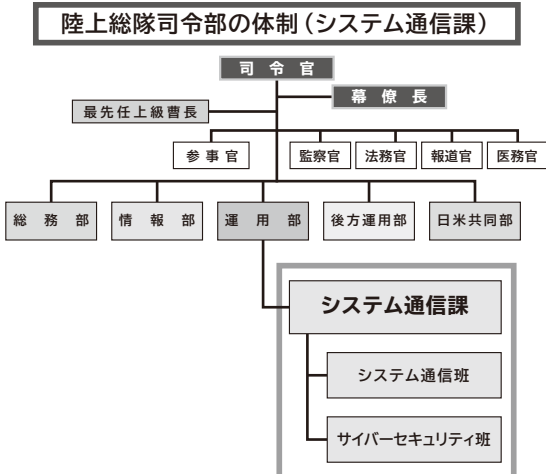
四 おわりに

今後、次期中期防に向けたシステム通信能力の強化に係る総合的な検討が行われる予定です。通信電子課としても、同検討に積極的に取り組むとともに、陸自のC4ISR分野の充実発展に日々努力して参る所存です。信友会会員皆様のなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

別図1



別図2



会員だより

七十歳を超えて(雑感)

会員 吉田 義輝



先ず私に投稿の機会を与えていただき、信友会会長及び役員の方々に御礼申し上げます。折角の機会でありますので、拙文ながら日頃気になっていることを書いてみたいと思います。

私は平成二十九年元日に七十歳の古希を迎え、孫と遊んだり野菜を作ったりしながら過ごしておりますが、最近では終活という言葉が気になっております。ピンピンコロリが一番との意見もあります。が、医学・心理学、最近急速に進歩してきたAI技術の分野でも、これと言ったこの問題への答えを聞いたことがありません。何とか心の落ち着く答えが欲しいと思うこの頃です。

信ずる者は救われるという俗説が有るようですが、お釈迦様によれば、解脱の世界が救いの世界であると言っておられます。また後継者達の論によれば、厳しい修行と難解な仏典を会得すれば救われると言う説もあるし、ひたすら仏様を信ずれば救われると唱える説もあって何が本当か私の凡庸な理解力では判らない世界であります。では私の家には仏壇は無いのかと言えそうですが、はなとて、小さい仏壇に阿弥陀様が居られますし、毎日「おはようございます」「有難うございました」今日も無事でした」と手を合わせております。そうするとほんの少しの間ながらも気持ちが和らいで落ち着きますので不思議な感じがしております。皆さんは如何でしょうか？

さて、私は陸幕勤務時代に防衛計画(通信)を担当しておりましたがその頃の予想ではこれからは宗教対立、民族対立、テロ等々の脅威対処が重要になってくると言われておりました。当時の私には具体的なイメージが湧かなくて理屈上はそうなるだろうと言った程度の理解でしたが、何と今や世界中がこれに翻弄されております。世界の人々の日々の平和と安寧をもたらしてくれる宗教が今や真反対の現実を突き付けております。私は宗教に名を借りた殺人者の犯罪行為だと理解することにしております。人の負の部分をもき出しにするのは貧困、人種差別、間違った教育又は無教養、個人的欲望等々が要因だと思いますが、これらの問題の解決には心ある人々がしごとくこれに向かい合う事しか解決策は無いと思います。勿論自衛隊の存在と行動はこれに大きく貢献すると信じておりますしそうなければならないと思っております。

国内外での活躍が著しい自衛隊ですが、日本の過去の失敗を教訓としながら国土、国民の守りを第一義に今後とも活躍を願う次第であります。

更生保護及び更生保護施設について

会員 永田 豊明



みなさまこんにちは、私は、平成十六年に西部方面普通科連隊第一科長で定年退職し、現在、更生保護施設佐世保白雲で勤務しています。機会を得ましたので、更生保護について紹介したいと思います。

始めて十三年目、気づけば更生保護施設の施設長を拝命し、九年目。いずれの時代もそうでしたが、今が最も楽しい充実した日々を過ごしており、陸上自衛隊で培った生活の集大成となる仕事をしているような気がします。

更生保護とは、犯罪をした人、非行のある少年を再び犯罪や非行をすることなく、社会の一員として立ち直れるように、支えること。また、犯罪や非行が起こらないような地域社会を築いていくことで、その内容は、①保護観察(生活状況の確認・助言等)、②生活環境の調整(刑務所からの受け入れ調整・確認)、③更生緊急保護(刑期を終えた方への支援・助言)、④恩赦、⑤犯罪予防です。

更生保護を担う国の機関は、法務大臣の下に法務省保護局、地方更生保護委員会、保護観察所並びに支部、駐在官事務所が有り、これを支える民間ボランティアとして、BBS会、更生保護女性会、保護司、更生保護法人、協力雇用主があります。これらと連携を取る民間の施設が更生保護施設で、更生保護法人等が運営し、全国に百三ヶ所あり、最近では、福祉法人、NPO法人の更生保護への参入がみられます。

更生保護施設の役割は、宿泊所、食事を提供するだけではなく、対象者が社会に適応するために、①安心して自立準備に集中できるように生活基盤の提供、②日常の生活指導のほか、地域社会の一員として円滑に社会復帰するための指導、③自立に向けた就職の指導や援助、貯蓄管理の指導、退寮後における住居の調整・指導、就職支援、福祉や医療機関への橋渡し等、④処遇専門施設として、生活指導訓練、酒害・薬害等の依存症教育、特別な補導・援護処置等を行い、その再出発を支えています。

今後は、更生保護の世界も、高齢化や知的・身体・精神障害のある人の増加に加え、刑の一部執行猶予制度が開始されたのに伴い、覚せい剤等の薬物依存症者の受け入れ・補導するための職員の増加やそれらの専門知識・能力の向上が急務になることでしょう。

おわりに、定年までは、国防の任に一身を捧げ、今は社会の安全と安心を守り、罪を犯した人が一人でも多く更生・自立できるように全力で支援しています。

世の中には、いろんな環境で育った人がおり、誰でも大なり小なりの失敗はするものです。それらを温かく見守っていききたいと考えています。

地域の絆と自主防災活動について

会員 川本 収三



熊本地震発生から二週間程、自治会の自主防災組織の役員として活動した時の思いを紹介します。

前震の夜、激しい揺れが続く中、家族の安全を確認後、近くの公民館に走った。同じ頃、自治会長も公民館に着き、百五十m四方の防災地図を広げ防災本部を開設した。他の自主防災組織の役員も

次々に駆けつけ、住民約二百人程が公民館前に避難し不安と寒さに震えていた。その後、安否確認等を開始し約三時間後に住民の無事等を確認、災害用毛布等を支所から受領し避難住民への配布や野外用トイレを構築した。市の給水車二台が到着、皆で協力し、暗い中飲料水を袋詰めし、明るくなってから住民に配布した。余震が続く中、本震の夜は防災本部を開設していたので公民館で熟睡していた。前日より大きな強い揺れが襲い公民館から飛び出した。その後、前日と同じように安否確認等を実施した。

災害から生き残るためには、地域住民自らの取り組みに負うところが大きく「共助」が大事。思い返すと五年前から地域の青・壮年の集まり「座談会」が結成され、災害に備え座長以下で約半年間検討し自主防災計画を作成、年に二回程度地震を想定した会議等の実施、自治会総会で防災計画を説明し、防災地図を作成していた。又、地域の絆作りのため二十年振りに「どんどこ」が復活、春に花見、夏にバーベキュー、秋にパークゴルフが計画され地域の絆が深められていた。

話は本震後に戻るが、公民館が給水ポイントとなり有難いことに全国から支援物資が届いた。公民館を臨時の避難所として運営しつつ支援物資を毎日午前十一時に住民に配給した。又、ゴミ問題が発生したので、市有地約千三百㎡を市から借り臨時のゴミ置き場として活用した。熊本県中部の約十八万人が被災していたが、地震発生から数日間は自衛隊の活動が益城町等に集中していた。駒不足でしかたないと思ったが、ジープの一台でも被災地を走ってくれと住民がどれだけ安心するかと思っていた頃、私は臨時のゴミ置き場に当番で立っていた。その時、若い頃約十年間勤務した帯広第五旅団のジープが目の前を通過した。思わず走って追いかけたところ約一km先まで進んだジープが戻って来た。駆け寄り風呂は持っていますかと聞いた所、持っているとのこと。その後、調整により近くのスポーツセンターに風呂が開設された、第五旅団に感謝。犬も歩けば棒に当たる人も動けば道が開ける事が大事と改めて認識した。

地震列島日本、今大地の恵みが一転し、熊本に未曾有の被害をもたらした本地震に胸が痛みます。全国から頂いた皆さんの支援に感謝し、一日も早い復旧・復興を願うばかりです。本地震を体験し、地域の絆と備えが大事と改めて認識しました。今後は、隣保班単位の安否確認と緊急連絡網の整備等を図り、もう来ない事を祈りつつ来た時に備えたいと思います。

ありがたき「縁」と「円」

会員 荒由 美子



信友会会員の皆様におかれましては精力的に毎日をお過ごしのことと拝察申し上げます。今回私が大切に不思議に思う「縁」について話します。

「縁」とは生きている中でお互いがお互いを認知する出会いすべてが「縁」だと思っています。

私は初めてお会いする方に必ず言う言葉があります。「初めまして、宝くじ一等前後賞当てるより低い確率七十億分の一の出会いです。奇跡的な出会いが出来てとても嬉しいですよ」と。これは常に考えていることで「時代が違っていたら」「私が今ここにいなかったら」きつと出会わないうであろうと思うと不思議を感じざるを得ないので。

平成二十三年八月「東日本大震災」で皆さんが奮闘している中、システム防護隊を最後に三十四年余の自衛官生活を終えました。この間公私ともに困難な状況を与えられ(自分で作った所も無きにしても非ず)行動方針は突破しかない私は何度も玉砕となりその都度周りの人は「しょうもない」と言いつつも私の骨肉を飽きもせず見捨てず拾い集め元通りの姿に戻してくれ「さあまた行け」と背中を押してくれました。「縁」あつて出会った人がいたからこそ無事に終えることが出来たのです。

今は「一般財団法人年金住宅福祉協会」で住宅ローン(厚生年金の転貸融資)返済困難な延滞者の返済相談や再生計画の助言をしています。ここでの「縁」はその方達の人生を左右する立場で、この「縁」が良きものとなるよう必死です。今日食べることに窮し眠る間もなく、毎日ダブル・トリプルワーキングで家を守ろうとしている人達が、「ありがたう」「荒さんが担当で良かった」と言って下さると私の方が様々な人生を学びさせて頂け感謝の気持ちでいっぱいになります。

プライベートではこれまで「縁」から「縁」が繋がって色々なジャンルの方々と出会い世界を広めています。「縁」あつて出会った方々から本当に沢山の宝物を頂き感謝。自衛隊時代から出会って今もなお多くの宝物を送り続けて下さる上司、先輩、同期に後輩。そして新たな出会いで益々増えていく宝物。「縁」が更なる「縁」につながっていくと「円」になります。「縁」が切れると「円」になりません。皆様も「縁」あつて出会った方々と久しくお会いしていなければまた連絡してみたいかがですか？それと、今まで誘われていても躊躇して出かけていなかった所にどんな素晴らしい「縁」があるかもしれません。

ちょっとお出かけしてみませんか？一例をあげる。年に一度の「信友会」の懇親会。場違いと思っている方、面倒くさいと思っている方がいたらそれは大きな間違いです。「縁」「縁」がウジャウジャいて「円」(お金の事ではありません)になる通信科メンバーの集まりです。通信科だけに「縁」というツールを切らすことのないようにしませんか？大小濃淡良悪に関わらず「縁」は有り難きものだ、私は今日も「縁」を大切に人と関わっています。

事務局だより

一 全般

信友会事務局では平成二十九年度も会長・副会長の指導のもと、熊本地震に伴う臨時役員会を含め年間六回の役員会を開催し、総会・合同歓送迎会業務を中心に各種管理業務を行ってまいりました。

二 地区懇親会の開催

会員相互の親睦を目的とした地区懇親会を各方面通信群等のご支援を戴きながら開催しております。
平成三十年度は、三月に西部方面通信群創立記念行事に併せて開催いたします。

三 信友会会員増加施策

信友会会員は、平成二十八年十二月末現在で総数九百四十六名となり、千名を切る状況となりました。これに伴い、平成二十九年度から信友会会員増加施策を推進しております。



三尉候補者課程修了時の表彰

具体的内容としては、現職幹部が退官後信友会に入会して頂けるよう、節目である通信学校入校時の機会を捉えて、幹部特修課程はもとより幹部上級課程、幹部初級課程、更には三尉候補者課程に対して、信友会会長による講話を実施し、信友会の役割・意義を説明し、理解促進を図るとともに、課程教育修了時の優秀学生への表彰を行っております。また、現職通信科部隊指揮官に対しては、信友会HPの閲覧用パスワードを通知し、信友会活動状況等をご理解いただけるよう努めております。

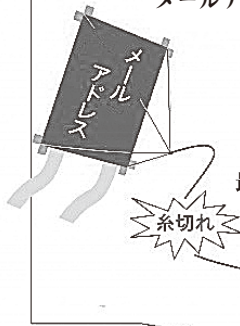
四 信友会ホームページの維持・拡充

平成二十八年三月に「信友会ホームページのリニューアル」を行い、平成二十九年二月からホームページ閲覧のアクセス制限を設けております。細部につきましては、同封致しました「信友会ホームページ（HP）閲覧に係るご案内」をご確認下さい。ご不明な点は、信友会事務局のメールアドレスにお問い合わせ下さい。

事務局からのお願い

メールアドレスを登録されている会員の皆さん

会社退職時やメールアドレス変更時は、事務局宛に新しいメールアドレスをご連絡下さい。
最近、連絡が取れない方が増えています。



お～い！

ホームページのURL http:// 信友会 .jp/
メールアドレス shinyukai@tune.ocn.ne.jp

五 信友会役員紹介（＊印 新任）

〔会長〕 田中達浩

〔副会長〕 時津憲彦

〔総務〕長…梁池雅彦

酒井郁哉・押川裕一・住谷正仁・中内裕（＊）

高橋宏彰・大野浩俊・片岡博信・千頭正明（＊）

〔機関紙〕長…須藤二男

花田順一朗・笹木明仁（＊）

〔名簿〕長…後藤高弘

島田義文・縄義生・白井一弘（＊）・森田康弘（＊）

〔会計〕長…山中隆義

濱田正徳

〔監事〕長…進藤進（総務から転任）

新居久佳（名簿から転任）

【編集後記】

最近の役員会では、総会・合同歓送迎会の準備に関するこのみではなく、会の魅力化施策、個人情報保護法への対応、ホームページの充実、更には印刷業者の変更等活発な議論が展開されています。御世話になっている会社の仕事をこなしながらも、信友会の歴史の一端を担うことに喜びと苦悩を織り交ぜながら頑張っている姿は、現役時代には見られない絵姿です。

不易流行とまでは言いませんが、時代の流れに晒されて悪戦苦闘をしているものの、今後も各係の立場を相互に理解し役員の力を組織的に組み合わせて乗り越えていきたいものです。いや、きつと乗り越えられます。（〇）

訃報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます
（H28.12.02～H29.12.01）

氏名	逝去年月日	住所
高久 久雄	H23.06.20	東京都
香川 照男	H24.03.13	香川県
今村 秀敏	H26.12.10	長崎県
平井 咸司	H28.05.12	東京都
林田 一郎	H28.06.29	埼玉県
清藤 健	H28.07.16	熊本県
坂井 協司	H28.10.18	神奈川県
竹花 通明	H28.10.31	岡山県
井上 秀夫	H28.11.11	東京都
浦江 幸彦	H28.12.07	埼玉県
保田井 秀明	H29.01.07	神奈川県
河内 加賀	H29.01.11	埼玉県
塚本 弘満	H29.01.26	東京都
田中 稲雄	H29.03.23	鹿児島県
小田 啓一	H29.04.06	埼玉県
石田 清善	H29.04.21	宮城県
河野 貞三	H29.06.22	東京都
井之上 雅春	H29.08.09	埼玉県
川口 紘二	H29.08.10	北海道
高橋 行雄	H29.08.13	青森県
飛渡 洋三	H29.08.28	東京都
鈴木 利孝	H29.11.13	東京都
中里 義弘	H29.11.13	神奈川県

平成29年叙勲おめでとうございます

春			
瑞宝中綬章	持田 修	元北部方面總監	
瑞宝中綬章	佐伯 義則	元第8師団長	
瑞宝小綬章	山根 健次	元通信学校副校長	
瑞宝双光章	住永 靖生	元第105通信運用大隊長	
瑞宝双光章	坂本 孝博	元西部方面通信群	
瑞宝双光章	中尾 福重	元中央基地システム通信隊	
瑞宝双光章	橋本 和也	元中央基地システム通信隊	
秋			
瑞宝小綬章	久井 勲	元通信学校副校長	
瑞宝双光章	初塩 進	元中央基地システム通信隊	

平成29年度信友会会計報告

(H29.01.01～H29.12.31)

(単位:円)

収 入		支 出	
前年繰越	2,361,509	慶弔費	132,800
終身会費	230,000	郵便等事務費	89,908
通信等事務費	126,000	印刷費	630,934
利子	4	原稿料	33,742
第53回総会残金繰入等	3,621	地方交付	50,000
		手数料等	9,750
		次年度繰越	1,774,000
計	2,721,134	計	2,721,134

以上のとおり報告します。
信友会会計幹事

平成29年12月31日
山中 隆義
濱田 正徳

監査の結果、異常ありません。
信友会監事

平成29年12月31日
進藤 進
新居 久佳

信友会新入会員名簿

(H28.12.02～H29.12.01)

氏名	最終所属	入会年月日	現住所
鴨 明彦	通信団本部	H28.12.25	埼玉県
森 浩之	通保監隊	H28.12.25	埼玉県
北島 芳久	中方通群	H29.02.06	東京都
泉 裕	北方指訓隊	H29.02.16	広島県
千頭 正明	通信団本部	H29.03.08	埼玉県
白井 一弘	防衛装備庁	H29.03.26	神奈川県
川瀬 昌俊	防衛装備庁	H29.03.30	京都府
津田 芳明	関西補給処	H29.04.07	大阪府
藤田 英雄	シス開隊	H29.04.13	東京都
川本 収三	西方通群	H29.04.18	熊本県
光井 章	通信団本部	H29.05.19	埼玉県
木下 千敏志	相馬原業隊	H29.05.16	兵庫県
高山 正広	東方通群	H29.05.16	東京都
高橋 修	2通大	H29.08.06	北海道
瀬戸口 博昭	3通大	H29.05.30	兵庫県
熊田 栄	通信団本部	H29.06.12	埼玉県
磯脇 巖	中方通群	H29.06.22	兵庫県
中内 裕	通信学校	H29.08.01	東京都
森田 康弘	通信団本部	H29.09.05	東京都
滝口 龍治	通信学校	H29.08.07	千葉県
笹木 明仁	幹部学校	H29.08.07	東京都
水上 義仁	中基シ隊	H29.08.31	埼玉県



合同歓送迎会新入会員紹介